

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">薬理学 B</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">薬学部薬学科 3 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">小山 豊 綿野智一</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">内分泌系、消化器系、血液系および代謝系に作用する薬物</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>2 年次前期の「基礎薬理学」では、体内に入った薬物の運命とその作用発現までの機構について、薬物一般に共通する性質を総論しました。薬理系科目では以降、個々の薬物の性質について学習して行きます。3 年次前期に開講する「薬理学 B」では、「内分泌系、消化器系、血液系、代謝系に作用する薬物の作用点、薬理作用、臨床応用などに関する基本的な知識を習得する」ことを、学習の一般目標とします。</p> <p style="text-align: center;">(日本薬学会モデルコアカリキュラム C13(2)「薬の効き方 I」および A(2)「医療の担い手としてのこころ構え」に一部に対応)</p>		
<p>評価方法</p> <p>授業への出席数、および期末時に課す試験の成績を評価の対象とします。また随時小テストを行い、各受講生の目標への到達度をフィードバックして行く予定です。</p>		
<p>テキスト</p> <p style="text-align: center;">薬理学 - 医薬品の作用 -</p>	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">竹内 幸一 福井 裕行 栗原 順一 編</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">廣川書店</p>
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンダード薬学シリーズ6 「薬と疾病 I」 ・New 薬理学 	<p>著者</p> <p style="text-align: center;">日本薬学会 編 田中千賀子、加藤隆一</p>	<p>出版社</p> <p style="text-align: center;">東京化学同人 南江堂</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>以下に示す薬物の基本項目に関する知識の修得を、各回の授業での到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の使用に関する事故回避における、薬剤師の重要性を認識する。 ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 2. 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。 3. 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。 4. 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 5. 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 6. 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 代表的な腎臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 7. 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。 8. 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 9. 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 10. 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 11. 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。 12. カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 13. 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 14. 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 15. アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。 		